

## 「現代の赤紙」

## 廃止を」と訴え

都内で集会

裁判員制度がスタートしてから21日で1年になるのを前に、弁護士や文化人らでつくる反対グループ「裁判員制度はいらない／大運動」が18日、東京都内で集会を開き、市民ら約1500人が参加した。参加者は「現代の赤紙」のような制度は一刻も早く廃止

を」とあらためて訴えた。

講演した九州大の齋藤文男名誉教授（憲法学）は「正当な理由なしに辞退できない裁判員制度は、思想・良心の自由を保障した憲法に反している」と批判。「（刑事裁判は）公平でなければならず、市民感覚などに流されてはいけない」と強調した。

昨年12月に岐阜地裁の強制わいせつ致傷事件で裁判員を務め、判決後の会見で制度を

批判した岐阜県美濃加茂市の果樹園経営白木章さん（60）もビデオで登場。「権力を持つ人が（市民に裁判所へ）出頭を命じるのは民主主義ではない。徴兵制だと思った」などと感想を語った。

グループ呼びかけ人の映画監督崔洋一さんや漫画家の蛭子能収さんから4人が壇上に上がり、「裁判員制度が続けば、虚構の正義が真実になりかねない」などとアピールした。